

## 説教

2013.8.4

### 飲み食いを楽しむ

ルカ 12章 13-21 節

<はじめに>

宗教が世の中で実際に生きていた時代、人々が神を信仰していた時代の宗教者は、ただ宗教的な教えだけでなく生活の相談に乗ったり、もめごとの裁定もおこなっていました。きょうのテキストはある人がイエスに兄弟間のもめごと、遺産相続問題を訴える話です。そこから「お金」問題、そして「死」の問題へと話はひろがっていきます。これらはいつの時代でも、また誰にとっても切実な問題です。

イエスは二つの返答とたとえ話で答えました。

- ・ 貪欲に注意し、用心せよ。
- ・ 人の命は財産ではどうすることもできない。
- ・ ある金持ちのたとえ話

<自分の力、貪欲>

現代の私たちは自分の力でなんとかしよう、自分の力ですべてをやっていこうと考えます。これはごく普通のことです。自分の責任を果たす、自己責任でなんとかする、などなどです。しかし、ほどほどにしておけばいいのに欲目がでる、もっとなんとかしたい、するとどうなるのか。ある人はお金が必要だ、またある人は権力なければ完全とはいえない、ということになります。人間はみずから金の力や権力を欲する時、神は助けにはならず邪魔になります。貪欲に注意し、用心しなければなりません。死は貧しいものにも豊かなものにもやってきます。お金がいくらあろうとも、また強大な権力、あるいはちびっちょな権力をもっていようとも死は誰にも同じようにやってきます。

<コヘレトは言う>

コヘレトの言葉にはこうあります。

**1:2 コヘレトは言う。なんという空（むな）しさ／なんという空しさ、すべては空しい。**

これは人生の意義、意味についての疑問です。いわゆるニヒリズム、虚無主義をコヘレトは告白しているのでしょうか。

きょうのテキスト（第一朗読）ではこれに続けてコヘレトはこういいます。

**2:21 知恵と知識と才能を尽くして労苦した結果を、まったく労苦しなかった者に遺産として与えなければならないのか。これまた空しく大いに不幸なことだ。**

コヘレトは遺産を与えることは空しい、つまり死ぬことが空しいといっています。その理由として、自分が労苦して築いた財産を愚者だか賢者だかわからない相続人が支配するからだといっています。

続いてコヘレトはこういいます。

**2:24 人は食い飲みし、その労苦によって得たもので心を楽しませるより良い事はない。これもまた神の手から出ることを、わたしは見た。（口語訳）**  
すべては空しいと告白するコヘレトは飲み食いを楽しむことを奨めます。そしてそれは神からの賜物なのだと言っています。

<イエスは言う>

**12:20 しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。**

一方、イエスは金持ちのたとえの中で、飲み食いするぞと宣言する金持ちに対して「お前の命は取り上げられる」とあっさり否定します。

**12:21 自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。**

つづく 21 節はルカの付け加え、ルカの編集文と言われます。一般的な宗教教訓ですが、これは嘘でしょう。よけいなお説教です。

金持ちだろうが貧乏だろうが、誰であろうと死んで持っていけるものはありません。たとえその人がどんなに「神の前に豊か」であろうとも、この世でため込んだ財産は多かろうが少なかろうが死ねば役に立たないことに変わりないからです。

#### <イエスの言葉、コヘレトの言葉>

イエスのたとえ話にでてくる金持ちの地主がさんざん搾取しておおきな蔵をたてた後の「飲み食い」宣言と、コヘレトが語る「飲み食い」宣言の状況は背景がずいぶんと違ってきます。

イエスのたとえ話は倫理として、つまり「いいわるい」の話のレベルで語られています。仮にこのたとえ話を脚色してを村芝居で演じたとすれば、いつも偉そうにしている金持ちに対する神の仕打ちに観衆はやんやの大歓声をあげるでしょう。かたや、すべてが空（くう）、すべてが空しいと言うコヘレトの語る言葉は、宗教倫理としての「いいわるい」を超えた次元の言葉です。

#### <信じること、感じること>

神を信じるか、信じないかという問いに加えて、神を感じるか、感じないかと問いを重ねることができます。

この重ねた問いに対しては、理屈の上では四つの答えがあります。

- ・ 神を信じ、神を感じる。
- ・ 神を信じるけれど、感じない。
- ・ 神は信じないけれど、感じる。
- ・ 神を信じないし、感じない。

この四つの中からひとつ選びなさいと言われてもたいていの人は困るでしょ

う。正直に答えようとする、なんだかんだ留保や注文をつけたくなるのではないのでしょうか。

私たちは、せっぱつまってどうしようもないとき、イエスの言葉に救われます。それでもまたどうしようもなくなった時にはコヘレトの言葉も聞いてください。私にはイエスが言うに言えなかったこと、言ったけれど記録に残っていない言葉をコヘレトが語っているように思えます。

イエスが語りつくせなかった神をコヘレトは言葉として残しています。